

# シリーズ 財政再建 ①

## 赤字再建団体転落への危機!!

本誌3月号でもお知らせしましたが、小樽市の財政状況は、依然厳しい状態が続く、財政再建は待たなす。そこで、当面の市政の最重要課題である「財政再建」について、その取り組みの状況や、今後の事業運営に与える影響などを、今回からシリーズでお知らせします。

### ◇これからの収支見通し

これまでの状況を整理すると、現行の財政健全化計画での収支見通しでは、平成15年度から17年度までで約150億円の収支不足を見込んでいました。しかし、15年度は健全化の取り組みなどで、収支不足を約22億円圧縮しました。その効果は、次年度以降にも及ぶと考えられますので、3カ年での収支不足は約84億円と見込まれています。

そのイメージは下のグラフのようになります。財政健全化の取り組みを行わなかった場合の収支見通しはAのラインです。これまでの財政健全化の取り組みによって、累積赤字は、Bのラインまで改善すると見込まれます。しかし、累積赤字が約66億円（小樽市の「標準財政規模の20%」）を超えると、国の管理の下で再建を行う、赤字再建団

体へ転落してしまいます。

このままの状態ですと、平成17年度にはグラフで示されている赤字再建団体のラインを超えてしまいます。このラインを超えずに収支バランスのとれるCのラインの状態に改善するためには、さらに厳しい目標を設定して、新たな計画を策定し、財政の健全化に取り組み必要があります。

### ◇財政健全化へ向けて

仮に、現状のBのラインのままですと、毎年度20〜30億円、歳出(支出)が歳入(収入)を上回り、収支のバランスが大きく崩れることとなります。その要因としては、短期的に市税収入などの増加を見込むことは難しいこと、また、収支不足を補てんする基

金もなく、赤字を穴埋めするための借金もできないことがあります。健全化のためには、収支バランスを示した左の図のように、事務事業の見直しや人件費を削減することで歳出を減らすとともに、市税などの収納率の向上や受益者負担の見直しにより歳入を増やすことで、収支のバランスをとるよりほかに方法はないと考えられます。

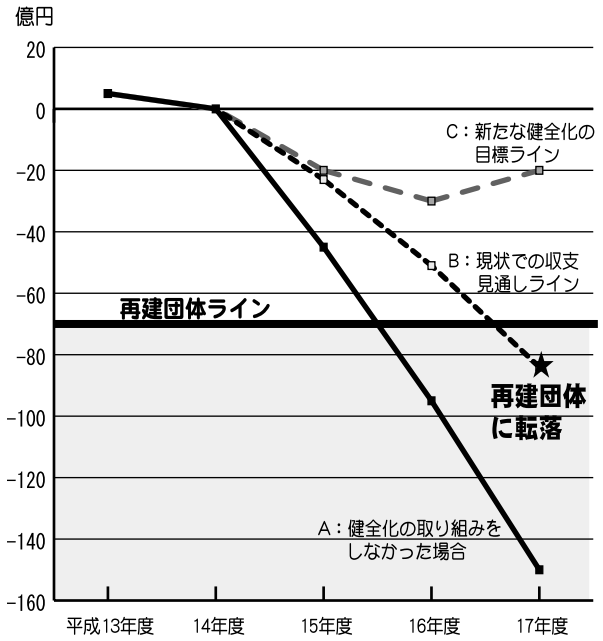
現在、市の財政構造は、大変硬直化しており、管理経費を中心に削減してきたこれまでの手法によって健全化を図ることには限界があります。

そのため、今後の見直しでは、市民の皆さんにも一定の負担や痛みを分かち合うことをお願いすることもあるかと思いますが、市財政の立て直しに向けて、小樽市を挙げての取り組みをいたしますので、市民の皆さんの更なるご理解とご協力をお願いいたします。

次号では、平成14年度決算と本市の財政構造についてお知らせします。

◆小樽市の財政についてお問い合わせは、財政課 ☎ 4111 内線 231・232 へどうぞ。

累積収支不足額の推移

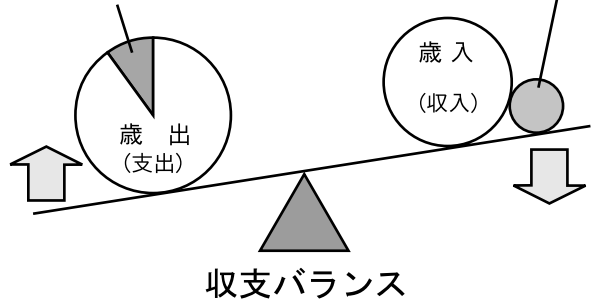


#### 歳出の削減

- ・事務事業見直し
- ・組織・機構改革
- ・人件費の削減

#### 歳入の増加

- ・受益者負担
- ・収納率の向上



#### ▶ 今後の見直しの方向性

- ・事務事業の見直し
  - 事業の廃止・削減・再構築
  - 各種補助金の見直し
- ・組織機構改革
  - 民間委託の推進
  - 組織のスリム化
- ・人件費の削減
  - 職員数の削減
  - 職員給与の見直し
- ・受益者負担の見直し